

支部便り

中国四国支部第8回講演大会の開催報告

Report on the 8th Annual Meeting of Chugoku and Shikoku Branch of the Japan Institute of Light Metals

音田 哲彦*・陳 中春*

Tetsuhiko ONDA* and Zhong-Chun CHEN*

平成28年7月9日(土)に中国四国支部第8回講演大会が鳥取大学工学部にて開催されました。週間天気予報では雨の予報で心配しましたが、前日夜の予報では曇りに変わり、当日は早朝に雨が降りましたが開催中は晴天に恵まれました。午前中に役員会が開催され、例年通り午後から支部長(広島大学 佐々木先生)のあいさつから始まり、その後は2会場に分かれて講演大会が行われました。講演件数は学生・院生の発表が16件、一般の発表が10件の全26件で、鳥取県開催という交通の便のためか、例年よりはわずかに少ない発表件数となりました。今回も学生による発表が半数以上を占めており、聴講された大学や短大・高専、公設試験研究機関の研究者、企業の技術者の方々と活発な質疑応答も随所に見られ、学生には大きな刺激になったことと思われます。アルミニウムのセッションを3つ、チタンのセッションを2つ、そしてマグネシウム・多孔質および酸化・拡散・接合と複合材料のセッションの各1つを実施しました。参加者は、学生が25人、一般が22人の計47人でした。

支部講演大会は中国四国支部における研究者・技術者および学生の方々の軽金属材料に関する学術交流および意見交換の場としてだけでなく、学生の教育および研究意欲の増進ならびに若手の育成を目的として毎年行われています。その一環として、優秀な研究発表に対する表彰制度が設けられており、学生・院生に対しては“優秀講演賞”，それ以外の方々には“研究・開発奨励賞”が授与されています。

今年の優秀講演賞には「Structure Control of VGCF/Aluminum Matrix Composites (広島大 Erlangga)」、 「押し出し成形したアルミニウム/黒鉛複合材料の組織と熱伝導性 (鳥取大 吉田典央)」、 「含浸反応法による金属間化合物粒子強化複合材料の製造及びその特性評価 (広島大 堀田祐介)」、 「Ti-42Nb合金の電気抵抗に及ぼす溶体化処理温度の影響 (岡山大 丸山拓也)」、 「AZ91D合金射出成形品の曲げ特性および微細組織に及ぼすシリコン粉末添加の影響 (岡山県立大 柴田和樹)」、 「Ti-4Fe-7Al合金の時効挙動と微細組織に及ぼす熱処理の影響 (岡山大 井尻政孝)」の6件が選ばれました。また、研究・開発奨励賞には「Ti-xNb-7Al合金の時効硬化と微細組織におよぼすNb添加量の影響 (岡山大 竹元嘉利ほか3名)」、 「アルミニウム基複合材料における強化相のサイズと有効熱伝導率の関係 (広島大 杉尾健次郎ほか3名)」「金属間化合物 TiAl合金の高温酸化に及ぼす Zr 添加の

影響 (新居浜高専 高橋知司)」、 「人工股関節表面への多孔面付与における拡散接合に関する研究 (鳥取大 音田哲彦ほか4名)」、 「車載用アルミニウム合金-エンジニアリングプラスチック接合技術の開発 (株式会社サーテック永田 永田教人ほか4名)」の5件が選ばれました。皆様の受賞をお祝いするとともに、今後のご活躍も期待しております。

講演大会の後は例年通り懇親会を行いました。懇親会には学生が21人、一般が21人の計42人の参加があり、昨年の報告でも竹元先生が書かれましたように、懇親会参加者率が非常に高いというのがやはり中国四国支部大会の特徴であるように感じました。懇親会では研究者・技術者・学生間の活発な情報交換を行い、大いに親睦を深めていただき、とても有意義な時間を過ごすことができたと思われま

す。なお、支部大会では優秀な研究発表に対する表彰式を懇親会中に行いました。研究発表に対する審査員の採点の集計はすぐに終わるのですが、どうしても賞状の印刷作業に手間がかかりました。図1の写真は、何とか間に合った賞状を持って懇親会の最後に撮った記念写真になります。多々不手際があったことと思いますが、この写真を残せたことで水に流してください。

最後になりますが、今回の開催地の鳥取まで足を運んで本講演大会に参加していただいた皆様、支部の役員の皆様へ厚く御礼申し上げます。来年の愛媛大学の講演大会で皆様と再会できることを楽しみにしております。今後とも是非よろしくお願いたします。



図1 懇親会の最後に、受賞者とともに